



園児と楽しく食農教育



▲6月5日 東広島市立木谷保育所



▲6月6日 東広島市立風早保育所

JA安芸津支店ふれあい委員会は、今年度保育所を対象とした食農教育に力を入れます。

6月5日、6日に安芸津町の2つの保育所でサツマイモ苗の植え付けを行いました。園児たちは指導員から説明をうけ、真剣に植え付けました。「大きくな〜れ!」と水やりをし、収穫まで管理を行います。



赤馬鈴薯出荷組合総会開催 『未来につながる産地づくりへ』

東広島市安芸津町の赤馬鈴薯出荷組合は5月10日、同市立木谷小学校で令和7年度の通常総会を開催しました。生産者やJA、広島県、東広島市など約70名が参加し、令和7年度事業計画など2議案を満場一致で決定しました。

国重浩二組合長は、「物価の高騰が続くなか、産地にはさらなる変化が求められている。異常気象に対応した生産体制の確立、生産者の所得向上のためのブランド力強化、資材見直しや新技術の導入によるコスト削減・農作業の省力化などをめざす。さらに次世代の生産者育成をすすめ、未来につながる産地づくりに取り組む」と力を込めました。



▲議案説明を受ける組合員



共同購入学ぶ

JA女性部芸南地区本部は5月27日に、JA安芸津支店でこめ油と米ぬかスキンケアの商品講習会を開催し、部員など30人が参加しました。

築野食品工業から講師を迎え、玄米100kgからとれるこめ油はわずか1kgでたいへん貴重であることなどクイズを交えながら学び、こめ油で作った味噌から揚げとおろしたまねぎドレッシングを試食しました。

また、米ぬかスキンケア講座では、inahoシリーズの紹介と自分でできる小顔リンパマッサージの講習を行いました。



▲おろしたまねぎドレッシングを学ぶ部員



▲inahoシリーズを学ぶ部員



水稲 7月

病害虫防除：出穂前の病害虫管理の重要な時期となります。いもち病・紋枯病・ウンカ類および雑害虫の予防に努めましょう。

●防除例

〈粉剤使用の場合〉

- ・トレバリダビーム粉剤DL (10a 当たり3〜4kg 収穫14日前まで、使用回数3回以内)

〈粒剤使用の場合〉

- ・ゴウケツモンスター粒剤 (10a 当たり3kg 出穂5日前まで、ただし収穫45日前まで、使用回数1回のみ)

〈豆つぶ剤使用の場合〉

- ・ワイドパンチ豆つぶ (10a 当

り250g 収穫35日前まで、使用回数1回のみ)

〈液剤使用の場合〉

- ・アミスタートレボンSE 1,000倍液 (10a 当たり60〜150ℓ 収穫14日前まで、使用回数3回以内)

※いずれも出穂完了前の早期防除を心がけましょう。

水管理：無効分けつを止め、根の動きを盛んにするため、田植後40日前後で（有効茎の確保ができた）田の表面に少し亀裂が入る程度に中干しを行ないましょう。また、中干し後の雑草駆除にも注意しましょう。

水稲 問 安浦店

TEL 0823-842049

担当 桑原 伸明

野菜 7月

病害虫防除：梅雨明け時期の7月は、高温多湿で病害虫が多発します。薬剤防除は日中に行なうと高温で薬害が出やすくなるため早朝か夕方に行ないましょう。薬剤は植物体に付着し、乾いてから効果が発現します。なるべく天気の良い日を選び、散布直後に降雨があったら薬剤

が流れ落ちるので、後日、再度防除を計画しましょう。散布作業は、株元から先端にむけて噴霧し、特に葉裏に丁寧に散布しましょう。

その他：梅雨明け後に天候が良くなると乾燥で土壌の水分が減りやすくなります。株元へ不織布やワラ等を敷くと、乾燥を防ぎ安定した成育につながります。

〈7月の種まきのおすすめ〉

暑くなると作業もしづらく、つい種まきを減らしてしまいそうですが、夏〜初秋向けとして、次の作物を作付してみませんか？（品種については各メーカーの作型を見てください。）

7月に開始する作物の例

- ・ニンジン（7月末に種まきすると10月収穫開始）
- ・コマツナ・ミズナ・チンゲンサイ（種まき後約1か月で収穫開始）
- ・トウモロコシ90日型（7月に種まきすると9月収穫開始）

野菜 問 営農経済課

TEL 0846-4513360

担当 久保 勝義

果樹 8月

かんきつ

●病害虫防除

今月の病害虫対策として、ミカンバエ対策と黒点病対策が重要になります。

ミカンバエ防除は、8月上旬〜8月中旬にモスピラン顆粒水溶剤（劇）4,000倍液と8月下旬にスタークル顆粒水溶剤2,000倍液を必ず散布しましょう。また、8月下旬には黒点病対策としてジマンダイセン水和剤600倍液（または、ペンコゼブ水和剤600倍液）、ミカンハダニ・サビダニ対策としてカネマイトフロアブル1,500倍とサンマイト水和剤（劇）3,000倍液を混用散布しましょう。どちらの防除にも品質向上（浮皮軽減・果皮強化）のためにカルピタP770倍液

〈生産工程管理日誌を提出しましょう〉
生産工程管理日誌は作業記録としても利用でき、事故から生産者・消費者を守る大事な記録です。農薬使用は細心の注意を払い、正確な記入と提出をお願いします。

を混用しましょう。

中晩柑類（特に、レモン・ネーブル・はるみ・はれひめ等）は、か
いよう病罹病性品種のため、台風
前にクプロシールド2,000倍液
を散布しましょう。

8月の防除作業の重点となるの
は、果実の黒点病発生をいかに防止
するかです。枯枝が感染源となり、
降雨により果実に黒点がつく病気で
す。特に樹の高い位置にある枯枝は
早目に除去しましょう。（レモンを
早期に出荷される方は、黒点病防除
薬剤の収穫前日数に注意し散布しま
しょう）

暑い時期の作業となりますので、
体調に十分注意しながら防
除作業を行ないましょう。

●フィガロンの散布で品質向上!!

8月下旬は、熟期促進・品質向上
目的の2回目の散布時期となります。
樹勢の強い樹に、フィガロン液剤3,
000倍液と樹勢維持対策で葉面マ
グ6000倍液を混用散布しましょう。

びわ

●収穫後のせん定

果痕枝（収穫後の枝）から発生し
た2〜3本の新梢は外向きの芽を残

し、それ以外は一葉残してせん定
し、来年の予備枝とします。

●病害虫防除

8月下旬にアブラムシ類対策とし
てモスピラン顆粒水溶剤（劇）2,
000倍液と、カイガラムシ類対策
としてアタックオイル1000倍液を
混用散布しましょう。

いちじく

●かん水

いちじくは収穫直前に急激に肥大
するため、収穫期間中でも土壌が乾
燥しているようであれば、適宜かん
水を行ないましょう。（目安…無降
雨日が7〜10日以上続く場合）

●収穫について

収穫は気温の低い早朝に行ないま
しょう。（収穫後の糖度・品質保持
性が違います。）

降雨後の果実は傷みが多く、果汁
が出ているようであれば腐敗してい
る可能性があります。傷を付けない
ように果実の根元に近い部分に軽く
指をかけ、持ち上げ気味に収穫を行
ないましょう。収穫後は果実同士が
接触しないように、また直射日光を
当てないようにしましょう。

腐敗果実を放っておくと病害虫の
発生要因となるので、園外に持ち出
してから処理しましょう。

農薬使用の注意点

- ・使用者自身の安全のため、農薬の
製品ラベルに従った保護具を着用
しましょう。
- ・環境への安全のため、周辺住民
や農家に配慮し掲示版などで農薬
の使用を事前に伝え、農薬が飛散
してかからないように注意しま
しょう。
- ・作物の残留農薬が問題となつて
いますが、農薬の製品ラベルに従
い、決められた作物種、使用量、
使用時期、使用回数などを確実に
守れば基準値を超えることはありません。



果樹問 安芸津アグリセンター
TEL 0846-4510488
担当 J A広島果実連(株)
駐在技術員 栗木 富生

7月の苗販売情報

JA安芸津アグリセンターでは、直売所などJA出荷者の
支援として、128穴セルトレイでの野菜苗の生産・供給
を行なっています。数に限りがありますので、お早目
にお問合せ頂さぜひご利用ください。

今月の供給品目

品目名	品種名	販売予定	収穫予定
キャベツ	初秋	7月中旬～	9月中旬～

※在庫・価格等詳細については随時お問合せください。
※特注品についても相談の上、対応致します。



128穴セルトレイ



(商品例) キャベツ苗

自然に恵まれ「人と人との豊かな生活」がそこにある

あなたとわたしの
ふれあい市



JAひろしま ふれあい市安芸津店

東広島市安芸津町風早647番地 8

ふれあい市は、『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』
『地域の活性化』を基本目標とし、地産地消に取り組んでいます。



7月の
おすすめ

夏真っ盛り! ギラギラした太陽がまぶしいですね!
ジトジトした梅雨から一転、熱中症に注意が必要です。
みなさん対策はされていますか?

トマト



桃



キュウリ



ナスビ



スイカ



熱中症の対策も重要ですが、ビタミンCの摂取も大事です。
夏はたくさん汗をかくため、水溶性のビタミンCは体外へ
排出されやすいのです。

夏バテ防止のため、トマト、ピーマン、オクラやスイカを
食べて猛暑を乗り切りましょう。

ふれあい市ではビタミンCを多く含む新鮮な野菜や果物を
そろえてみなさまのご来店をおまちしております。

出荷会員募集中

自慢の農産物を出荷してみませんか?
興味のある方は下記の連絡先までお問い合わせください。

☎0846-46-1166

ふれあい市安芸津店 担当: 松本まで

※写真はイメージです。